柳久保遺跡群 II

1987

前橋市教育委員会

はじめに

昭和59年に始まった柳久保遺跡群の調査もあと１年を残すだけとなりました。この３年間の調査で台地全面の調査が完了し、４世紀から９世紀に渡る住居跡が発見され、多くの土器や鉄製品が検出されました。今回ここで紹介するものは、柳久保遺跡から出土した遺物です。現在、団地の工事は着々と進められ、遺跡だった所には家が建ち、過去の歴史を偲ぶことは困難になりました。しかし、まだ発掘調査は続きますので、今後の調査経過も紹介したいと思います。

旧石器・縄文時代

今までの調査で発見された中で最も古い遺物は、旧石器時代の石器です。それは今から２万年前に、チャートという石から作られたナイフ形石器と呼ばれているものです。

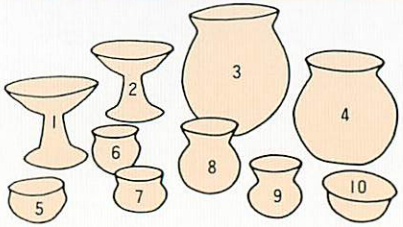
上の写真の見事な石器は、硬質頁岩からできている尖頭器で、今から１万年前に作られたものです。当時の人々は狩りを主な仕事としていましたので、石器は最も重要な道具でした。硬質頁岩や黒曜石など、石器の材料となるものは、東北地方や長野から運ばれてきました。続く縄文時代には、早期から前期にかけての住居や落し穴が発見され、土器や石器もたくさんみつかりました。

4　世　紀　　石田川期の土器

1 ひさご壺　5 小形丸底土器　9 器台
2 甕　6 小甕　10 甑
3 台付甕　7 高杯
4 壺　8 鉢

この時期の人々が使用していた土器は、土師器と呼ばれ、赤褐色・茶褐色をしており、縄文・弥生土器の作り方を受けついでいます。にたき用の甕や台付の甕に、くし目の文様がつけられ、口の縁を「S字形」としているのが特ちょうです。

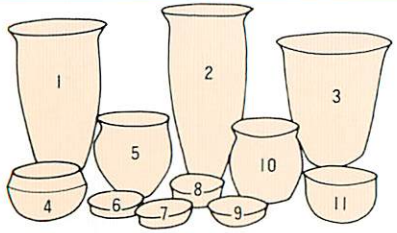
5　世　紀　　和泉期の土器



1 高杯　5 杯　9 瓶
2 高杯　6 小甕　10 杯
3 甕　7 坩
4 甕　8 坩

この時期の人々も土師器を使用しています。4世紀の土器に見られた、くし目文様の土器やS字の口縁をもつ台付甕、小形器台が見られなくなります。壺や甕の口縁は、深く「くの字」形に切れ込んでおり、この時期から弥生土器の特ちょうは、見られなくなります。

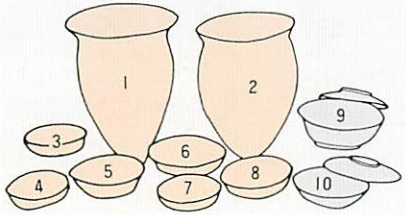
7　世　紀　　鬼高期の土器



1甕　5小甕　9杯
2甕　6杯　10小甕
3甑　7杯　11椀
4椀　8杯

カマドが使われるようになると、それに合うような長い甕が使われるようになります。朝鮮から、土師器よりも丈夫な須恵器が伝えられました。これは、硬い、灰色をした焼き物です。

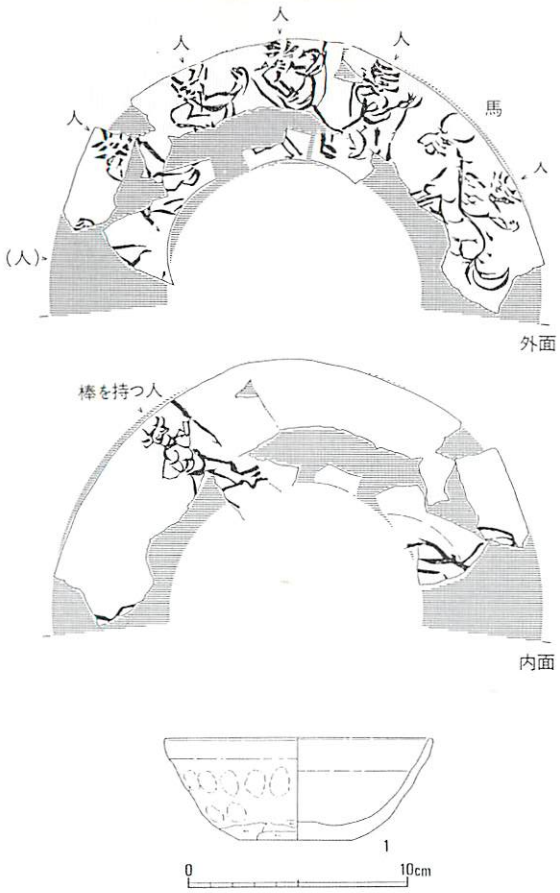
8 ～ 9 世紀　真間ー国分期の土器



1甕　5杯　9杯(須恵器)
2甕　6杯　10杯(須恵器)
3杯　7杯
4杯　8杯

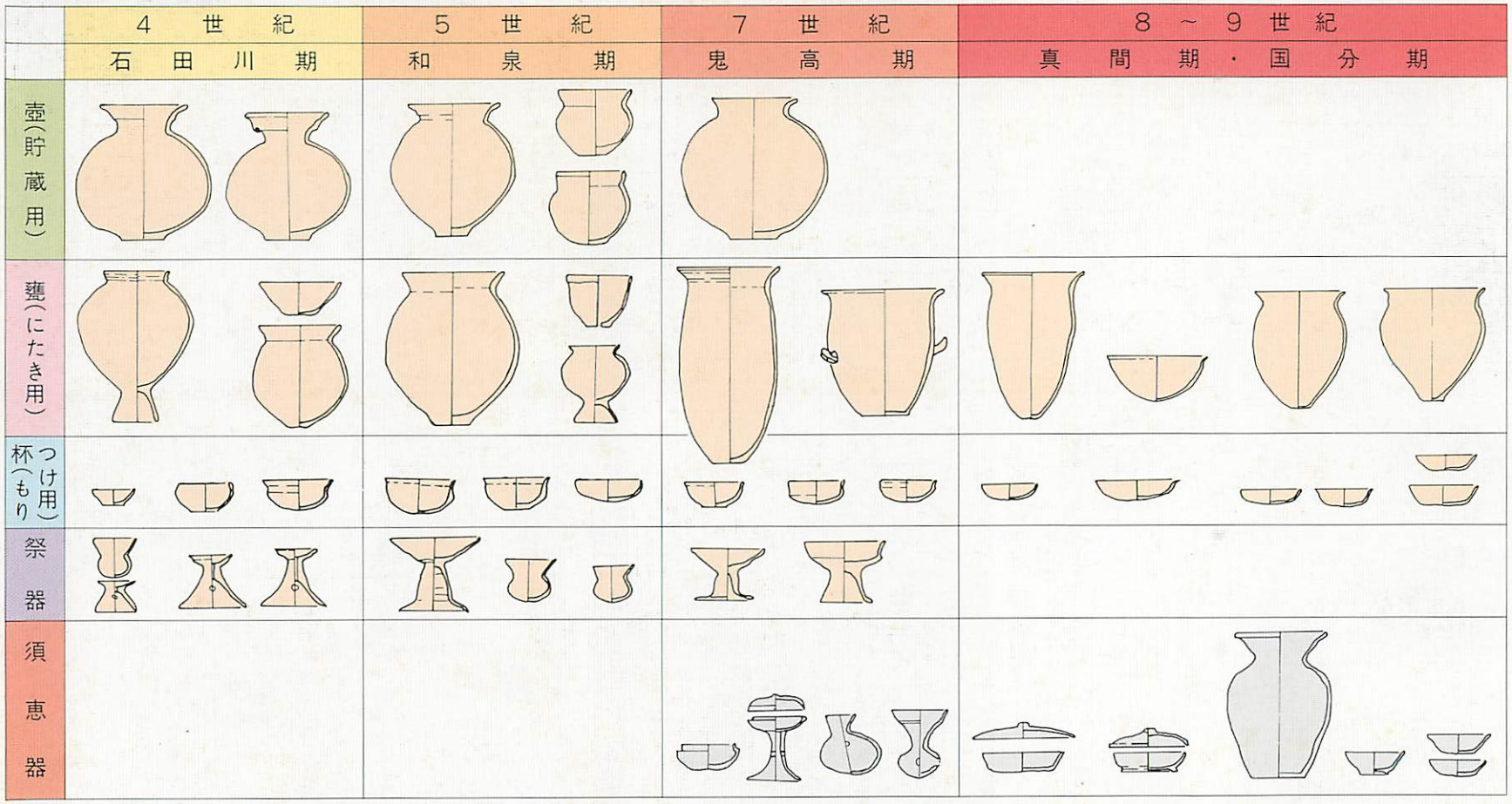
土師器の甕は、煮たきが早くできるように薄くなります。これらの甕の口の部分は、「コの字」形をしています。須恵器の生産が、さかんになり、次第に、人々の生活の中で使われるようになります。

柳久保水田跡出土墨画土器



昭和59年度の発掘調査で、水田跡から、5枚重なった平安時代の土師器の杯が発見されました。そのうちの1つに、内外面ともに墨による絵が描かれていました。上は、その絵で、右は、出土した時の写真です。

土師器の移り変わり



柳久保遺跡群 前橋市教育委員会
前橋市大手町 0272-24-1111

1987.11.06